第18回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム報告

実行委員長　岡島敏浩　（九州シンクロトロン光研究センター）

地域産業の高度化と新規産業の創出等を目的とした九州で初めてのシンクロトロン光応用研究施設の整備が進められている佐賀県鳥栖市のサンメッセ鳥栖で，第18回年会・放射光科学合同シンポジウムが2005年１月７日から９日まで開催されました。参加登録者は予想を大きく上回り607名と，昨年つくば市での第17回の623名に匹敵する規模でした。特別講演，企画講演を含めた口頭発表が96件，ポスター発表が356件と，450件以上もの発表が行われました。学生の参加者が120名と例年の倍近くにものぼったことも今回の年会の特徴でした。

特別講演では，東レリサーチセンターの石田英之副社長に『ナノテクノロジーを支える分析評価技術』，タイ王国スラナリー工科大学の石井武比古教授に『発展途上国での先端科学研究－タイ王国の放射光研究の場合』のテーマで講演していただきました（**写真１，２**）。『軟Ｘ線多層膜光学素子性能の進展』，『放射光利用による生態系環境試料分析の現状と展望』，『テラヘルツコヒーレント放射の最近の展開』，『タンパク質の超高分解能構造解析』，『極紫外・軟Ｘ線高輝度放射光源が拓くバイオ・ナノ顕微分光』，『未来の放射光の役割－励起光としての放射光が拓くサイエンス』の興味深いテーマで６つの企画講演が行われました。８日午前，９日午後に開かれた口頭発表のセッションも含め，予想を大幅に超える参加者により，一部の会場では講演会場に入れない人が出るほどでありました（**写真３**）。８日午後，９日午前に開かれたポスター発表においても，大勢の参加者で満員電車並みの混雑する中で，活発な討論が行われました（**写真４**）。予想を超えたとはいえ，講演会

写真２　特別講演：タイ王国スラナリー工科大学　石井氏

写真３　講演会会場

写真１　特別講演：東レリサーチセンター　石田氏

写真４　ポスター会場

(C) 2005 The Japanese Society for Synchrotron Radiation Research

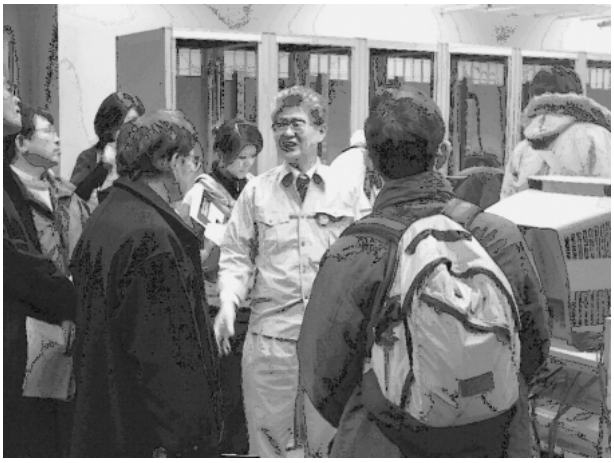

写真 5　見学会会場

写真 7　市民公開講座：古川佐賀県知事

写真 6　見学会会場行きシャトルバス

写真 8　市民公開講座：理化学研究所　北村氏

場やポスター会場では十分なスペースを確保できず，多くの参加者の皆様にご迷惑をかけてしまいました。また，パワーポイントのバージョンの不一致による動画のプレゼンテーションの不具合もありました。実行委員会を代表してお詫びいたします。

初日の７日には建設が進められている九州シンクロトロン光研究センターの見学会が開催されました。見学会への参加者は309名と，これも予想以上の参加があり，見学会会場への輸送手段として佐賀県庁にお願いして用意したシャトルバスを増便するほどでした（**写真 5，6**）。また，今回は九州地区で開かれる初めての放射光学会ということで，一般市民へ広く放射光利用を知ってもらうことを目的に，市民公開講座『SAGA シンクロトロンって何だろう ?』を開催しました。市民講座では佐賀シンクロトロン光計画の事業推進者である古川康佐賀県知事から，幕末から明治維新に先端科学技術を担った佐賀藩になぞらえ『シンクロトロンは21世紀の精錬方―佐賀県が期待するもの』のテーマでの講演をお願いいたしました。理化学研究所北村英男主任研究員からは『シンクロトロン光って何だろう？―未来を拓く魔法のランプ』のテーマで放射光の原理や特徴を学生にもわかりやすく吉野ヶ里遺跡の写真なども盛り込みながら解説していただきました。東京理科大学中井泉教授

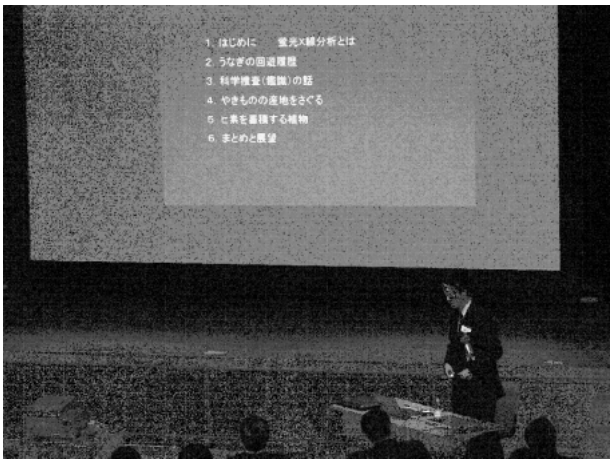

写真 9　市民公開講座：東京理科大学　中井氏

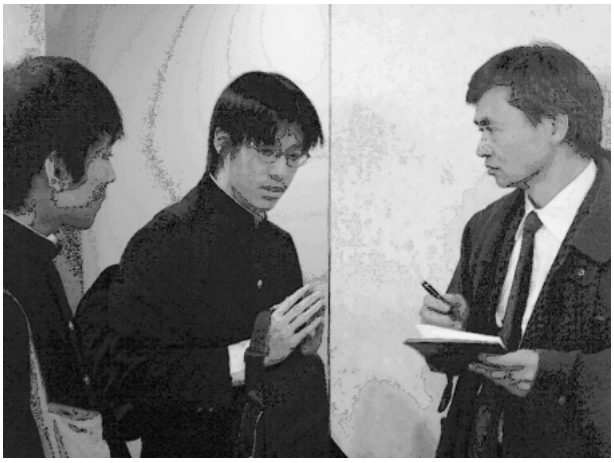

写真10　高校生の質問に答える北村氏

写真11　懇親会会場

からは『シンクロトロン光で何が見える？―五島列島のウナギの不思議な生態？有田か九谷か？　ヒ素を蓄積する植物や犯罪捜査の話　などなど』のテーマで，一般の人に身近なテーマについての様々な放射光利用の実績の紹介と，今後期待される研究や技術開発についての話がありました（**写真7，8，9**）。会場は立見が出るほどの盛況でした。市民公開講座終了後には，地元の高校生から講師に質問が出るなど（**写真10**），鳥栖市で進められているシンクロトロン計画への地元の人たちの関心の高さが伺えるものでした。

8日夜に行われた懇親会は，年会会場から少し離れたホテルで238名の参加者が集まって行われました（これも前回と同規模の参加者です）（**写真11**）。下村会長の挨拶に始まり，大変和やかな雰囲気の中行われました。懇親会の最後には次回開催地の実行委員会を代表して名古屋大学の竹田先生より挨拶が行われました。2日目，3日目の会場で行われた特別展示会へは39社もの企業に出展していただき，活発な情報交換を行うことができました。

今回の実行委員長の役目を引き受けたときにまず行ったことは，九州地区に何人の学会員がいるのか調査することでした。名簿を見た限りでは数人（両手であまるほど）でした。このような状況で，学会員の多数を占める関東・中部・関西地区から遠く離れた地での開催にどれだけの参加者があるのか心配でした。ところが，ふたを開ければ予想を超える参加者で，九州シンクロトロン光研究センターが新しい放射光施設として仲間入りできたことを実感でき，年会として成功を収める事ができました。これも，組織委員会，プログラム委員会が魅力あるプログラムをご企画くださった結果と感謝しております。最後に，実行委員会とともに，年会・合同シンポジウムの開催のみならず，市民講座，佐賀シンクロトロン施設見学に御協力いただいた佐賀県庁，九州シンクロトロン光研究センター，佐賀大学，九州大学，九州工業大学，福岡大学及び学会事務局の関係者の皆様に感謝いたします。